

- [プレスリリース](#)
- [お知らせ](#)
- [採用情報](#)
 - [採用情報](#)
 - [新卒採用](#)
 - [キャリア採用](#)
 - [障がい者採用](#)
 - [オフィスツアー](#)
-
- [お問合せ](#)
- [医療関係の皆さま](#)
- [グローバルサイト](#)

4月9日は「子宮の日」—アストラゼネカ、婦人科がん啓発セミナー「学んで備える、女性のがんとキャリア」を開催

公開日 2026年 4月 09日

キャリアとの両立が可能となってきた婦人科がん治療の現状を発信
梅宮アンナさん、西丸優子さん、ご自身の経験から「知識と検診」の重要性”を語る

アストラゼネカ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：アンドリュー・バーネット、以下、アストラゼネカ）は、「子宮の日」である4月9日（木）に、婦人科がん啓発セミナー「学んで備える、女性のがんとキャリア」を開催しました。本セミナーは、女性のライフステージの変化にともなう健康支援サービスを中心に展開する株式会社ファミワンとの共催イベントとして行われ、婦人科がんに対する知識を高めるとともに検診の意義を知ること、早期発見や婦人科の受診促進を目的に50社を超える企業で働く女性従業員を対象に行われました。

「婦人科がん」とは、卵巣や子宮等の女性特有の臓器から発生するがんの総称です。近年、卵巣がんや子宮がん（子宮体がん・子宮頸がん）と診断される女性は増加しており¹、卵巣がんと子宮体がんは50-60代、子宮頸がんは30-50代が発症ピーク年齢です²⁻⁴。子宮頸がんについては20歳以上を対象として、公的な予防対策として検診が推奨されていますが、卵巣がん、子宮体がんについては公的な予防対策として行われる検診はなく、症状に早く気づいて婦人科を受診することが推奨されています⁵⁻⁷。

本セミナーは、吉田ゆりさん（一般社団法人がんと働く応援団 共同代表理事）による「がんとキャリアの両立を目指して」のご講演で幕を開けました。ご自身の卵巣がん治療の経験を踏まえ、職場とのコミュニケーションの要点や、治療と仕事を両立するための支援制度の活用について詳しく紹介されました。実践面では、検診日を定期的な予定として管理する、就業規則に定める各種制度の内容を確認しておく、そして家族・同僚と情報を共有することが“がん防災”のカギと強調しました。また、両立支援の制度については「手遅れになる前に活用する」姿勢が重要とメッセージを送られました。

次に婦人科がんの専門医である温泉川 真由 先生（がん研究会 有明病院 婦人科 副部長 兼 総合腫瘍科 医長）から、「婦人科がんの基礎知識」のご講演がありました。子宮頸がんはワクチンや厚労省から推奨されている検診もあり、予防や早期発見が可能になってきている一方で、卵巣がんや子宮体がんは有効性が確立された検診がありません。温泉川先生は、「健康診断に経膈超音波検査を追加することで卵巣や子宮の状態を知っておくことをお勧めします。また、特に子宮体がんは初期症状として、不正出血という分かりやすい症状がありますので、放置せず、すぐに医療機関に相談していただきたいです」と、お話されました。

また、梅宮アンナさんと西丸優子さんをゲストに迎え、吉田ゆりさん、温泉川真由先生とともにクロストークセッションを実施しました。参加企業の女性従業員1148名を対象にイベントに先立って事前に実施された「婦人科がん認知および受療行動に関する調査」結果に触れながら、検診の意義や早期発見の重要性、治療とキャリアの両立について議論しました。調査からは、女性従業員に対する婦人科がんの情報提供が、婦人科がんの検査受検および不正出血があった際の受診行動に寄与する可能性が示唆されました。

【梅宮アンナさんコメント】

2人に1人ががんになると言われる中、がんに対して社会がアップデートされていないと感じています。情報発信をする中で、会社に病気を伝えたら、「変わらず働き続けたかったのに自宅待機になった」という患者さんのお話を聞きました。私も、番組降板を余儀なくされ、「健康で

なければ必要とされないかも」という社会的な壁を感じました。仕事を辞めて治療に専念される方もいらっしゃいますが、休む権利だけではなく、“戻る道”を作るといった、がんとの共存が当たり前になり、語り合える社会になればいいと思います。

【西丸さんコメント】

不正出血が半年続いたにもかかわらず、私はそれを“いつものこと”と放置していました。自治体の検診に行ったこともなく、がんとは無関係だと思っていました。しかし、がんは早期発見が全てなので、迷っていたら検診に行ってほしいと思います。そしてがん治療も進化していて、意外と普通の生活ができるようになっていきます。「がんは早期発見できれば、治る可能性のある病気」だということをもっと世の中に認知してほしいですし、キャリアと治療の両立を諦めて欲しくありません。

今回のセミナー共催は、産官学民のパートナーがつながり、健康課題の解決をめざす共創プラットフォームであるi2.JPの取り組みによって実現しました。アストラゼネカは、婦人科がんに関する正しい知識の発信や検診・受診の促進、治療と仕事との両立を支える環境づくりに今後もさまざまなパートナーと力を合わせてまいります。

【セミナー・調査概要】

タイトル： 婦人科がん啓発セミナー「学んで備える、女性のがんとキャリア」
日時： 2026年4月9日（木）13:00～14:15
共催： アストラゼネカ株式会社、株式会社ファミワン
温泉川 真由 先生（がん研究会 有明病院 婦人科 副部長 兼 総合腫瘍科 医長）
登壇者： 吉田ゆりさん（一般社団法人がんと働く応援団 共同代表理事）
梅宮アンナさん（タレント・モデル）／西丸優子さん（女優）
調査目的： 企業従業員における婦人科がんの認知・知識・受療行動の実態、企業に求める支援のニーズを定量的に把握し、得られた知見をもとに婦人科がんの理解促進や婦人科受診支援のための効果的な施策設計のインサイトを得るためのWeb調査
調査期間： 2025年12月15日～2026年2月6日 ※企業により実施時期が異なる
調査対象： 企業で働く女性（非正規雇用含む） 1148名
調査方法： Web調査（調査機関：株式会社ファミワン）
調査主体： アストラゼネカ株式会社
調査結果の詳細は、こちらのURLよりご確認ください

<https://www.astrazeneca.co.jp/content/dam/az-jp/press-releases/pdf/202604091-1.pdf>

以上

子宮頸がんについて

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部に発生するがんで、日本では毎年約1万人が診断されています⁸。子宮頸がんの発生には、多くの場合でヒトパピローマウイルス（HPV：Human Papillomavirus）の感染が関連しており、HPVが免疫により排除されず感染が続くことによって、前がん病変や子宮頸がんが発生すると考えられています⁹。20歳以上は2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが推奨されていますが、多くの市町村が検診費用を公費で負担しており、一部の自己負担で受けることができます¹⁰。

卵巣がんについて

日本において毎年新たに卵巣がんと診断される患者さんは約1万3000人です¹¹。初期の卵巣がんは自覚症状がほとんどないため、診断された時には進行していることが多いといわれています¹²。また、健康診断において、乳がんや子宮頸がんが乳腺や婦人科検診といったオプション検査で早期発見される可能性があるのに対し、現在のところ、卵巣がんに対して検診が有効であるという研究報告はなく、国が指針として定める検診はありません⁷。卵巣がんは、検診で早期発見することが難しいがんといえます。

子宮体がんについて

子宮体がんは、子宮の内膜組織から発生する極めて不均一な疾患であり、日本では50～60歳の女性に多くみられます¹³⁻¹⁶。子宮体がん患者さんの大部分は、がんが子宮に局限している早期段階で診断されます¹⁷。これらの患者さんは、概して手術および／または放射線療法による治療を受け、高い5年生存率（約80～90%）を示しています¹³。進行した病期（III～IV期）の患者さんは、通常予後はより不良で、5年生存率は20%未満に低下します¹⁸。

i2.JP（アイツー・ドット・ジェイピー）について

i2.JPは、アストラゼネカが世界で展開するヘルスケアイノベーション拠点「A.Catalyst Network」の一員として2020年11月に日本で発足し、オープンイノベーション活動を積極推進しています。i2.JPではスタートアップ、医療従事者、地方自治体、アカデミア、民間企業を結び付け、ヘルスケア分野の問題解決に向かい、集合知で実用的な最適解を一緒に生み出すための活動を展開しています。「患者中心」の実現、医療従事者への付加価値提供、患者と医療従事者に貢献する新技術の発掘と育成、医療システムの最適化という4つの課題への挑戦をミッションに掲げています。i2.JPについては、<https://www.i2jp.net/>をご覧ください。

アストラゼネカについて

アストラゼネカは、サイエンス志向のグローバルなバイオ医薬品企業であり、主にオンコロジー領域、希少疾患領域、循環器・腎・代謝疾患、呼吸器・免疫疾患からなるバイオフーマ領域において、医療用医薬品の創薬、開発、製造およびマーケティング・営業活動に従事して

います。英国ケンブリッジを本拠地として、当社の革新的な医薬品は125カ国以上で販売されており、世界中で多くの患者さんに使用されています。詳細については<https://www.astrazeneca.com>または、ソーシャルメディア@AstraZenecaをフォローしてご覧ください。

日本においては、主にオンコロジー、循環器・腎・代謝、呼吸器・免疫疾患およびワクチン・免疫療法を重点領域として患者さんの健康と医療の発展への更なる貢献を果たすべく活動しています。アストラゼネカ株式会社については<https://www.astrazeneca.co.jp/>をご覧ください。アストラゼネカの[Facebook](#)、[Instagram](#)、[YouTube](#)もフォローしてご覧ください。

References

1. がんの統計編集委員会 編, 「がんの統計2023」, 公益財団法人がん研究振興財団, p45, 52
2. 国立がん研究センターがん情報サービス がん種別統計情報「卵巣」
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/19_ovary.html (2026年3月アクセス時)
3. 国立がん研究センターがん情報サービス がん種別統計情報「子宮体部」
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/18_corpus_uteri.html (2026年3月アクセス時)
4. 国立がん研究センターがん情報サービス がん種別統計情報「子宮頸部」
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/17_cervix_uteri.html (2026年3月アクセス時)
5. 厚生労働省 がん検診 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html> (2026年3月アクセス時)
6. 国立がん研究センター がん情報サービス 子宮体がん 予防・検診
https://ganjoho.jp/public/cancer/corpus_uteri/prevention_screening.html (2026年3月アクセス時)
7. 国立がん研究センター がん情報サービス 卵巣がん・卵管がん 予防・検診
https://ganjoho.jp/public/cancer/ovary/prevention_screening.html (2026年3月アクセス時)
8. 公益社団法人日本産科婦人科学会 産科・婦人科の病気「子宮頸がん」 <https://www.jsog.or.jp/citizen/5713/> (2026年3月アクセス時)
9. 国立がん研究センター がん情報サービス 子宮頸がん 予防・検診
https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/prevention_screening.html (2026年3月アクセス時)
10. 厚生労働省 がん検診 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>
11. 国立がん研究センター がん情報サービス 全国がん罹患データ (2016年～2023年)
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html (2026年3月アクセス時)
12. National Cancer Institute. Cancer Stat Facts: Ovarian Cancer. Available at <https://seer.cancer.gov/statfacts/html/ovary.html>. Accessed March 2026.

13. Oakin A, et al. Endometrial cancer: ESMO clinical practice guidelines for diagnosis, treatment and follow-up. *Annals of Oncology*. 2022;33(9):860-877.
14. Dork T, et al. Genetic susceptibility to endometrial cancer: Risk factors and clinical management. *Cancers*. 2020;12(9):2407.
15. American Cancer Society. What is endometrial cancer? Available at <https://www.cancer.org/cancer/types/endometrial-cancer/about/what-is-endometrial-cancer.html>. Accessed March 2026.
16. 国立がん研究センター がん情報サービス 子宮体部 https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/18_corpus_uteri.html (2026年3月アクセス時)
17. National Cancer Institute: Surveillance, Epidemiology, and End Results Program. Cancer stat facts: Uterine cancer. Available at: <https://seer.cancer.gov/statfacts/html/corp.html>. Accessed March 2026.
18. Cao SY, et al. Recurrence and survival of patients with stage III endometrial cancer after radical surgery followed by adjuvant chemo- or chemoradiotherapy: A systematic review and meta-analysis. *BMC Cancer*. 2023;23(1):31.

関連コンテンツ

[アストラゼネカのStories](#)

[Storiesでは、サイエンスの限界に挑戦し、人々・社会・地球の健康を推進するアストラゼネカについて【医薬品開発／パートナリング／バイオニアたる所以／気候変動と健康／患者さんご家族のため／インクルージョン&ダイバーシティ／アストラゼネカで働く】の 카테고リーに分け、多様な取り組みの最新情報を紹介します。](#)

[アストラゼネカとは](#)

[私たちは「サイエンスの限界に挑み、患者さんの人生を変える医薬品をお届けする」ことをパーパスとする製薬会社です。私たちが大切にしている価値観、社員がそれぞれの業務で挑むサイエンス、職場環境などについて紹介します。](#)

[astrazeneca.co.jp](#)を離れます。

**リンク先のサイト内容については、
それぞれのお問い合わせ先にご連絡ください。**

重要なお知らせ

あなたは、アストラゼネカのアーカイブ資料にアクセスしようとしています。

これら製品またはご使用についてのいかなる資料も、最新の医学知識・情報が反映されているとは限らず、現行製品における情報の根拠として参照すること、また有効性や安全性が保証されたデータとして使用することはできません。現行の製品の情報については、承認を受けている**National Product Label(SmPC)**を参照してください。

私は、上記の警告メッセージを理解した上で、アーカイブ資料に含まれる製品情報を医療的な目的で使うことはありません。